

愛育ながさき

No. 29

発行所 一般社団法人長崎県手をつなぐ育成会
発行者 甲田 裕
〒852-8104 長崎市茂里町 3-24
長崎県総合福祉センター 県棟 4F 408号
Tel : 095-846-8730 Fax : 095-846-8738
E-mail : info@ikusei-nagasaki.jp
発行日:平成28年5月25日



笑顔の花咲く・ゆうあいスポーツ大会 平成28年5月8日(日)大村市総合運動公園



今年も県下の各育成会、施設など 5000 人近くが集まり、様々な種目を楽しみました。宝探しやパン食い競争は景品選びに真剣で、見守る支援員さんも大笑い。年に一度のこの日をみなさん楽しみにされていたのでしょうか。会場内は終始、熱い応援と楽しい雰囲気になっていました。

曇り空ではありましたが、終了するまで雨も降らず、天候にも恵まれた一日。準備から後片付けまでご協力くださったみなさま方、ありがとうございました。

(育成会リレー成績 1位:諫早 2位:時津 3位:佐世保)



西大村中学校吹奏楽部の演奏で
昼休みも楽しくダンス♪

さらなる願を叶えるために

2015年度 育成会事業報告

1. 本人と家族を支えるために

◇当事者・保護者ともに「高齢」を意識しなければならぬ時代へと入ってきました。65歳を越える障害を抱える当事者の皆さんには、第一段階は介護保険制度を利用すること。高齢者福祉において提供されていない障害者福祉サービスの利用が可能になるように行政への要望と協議の結果、若干の不便さはあるものの希望するサービスが利用できるまで来ていると判断しています。

◇全国手をつなぐ育成会連合会 権利擁護委員会では「できていますか？ 子どもを社会に託す準備」（仮称）と題し、冊子の発行に向けて草稿中です。「高齢化を迎えた親自身が何を準備すべきか」の手引きとなります。2016年度の学習テキストとして、活用が期待されています。

2. 本人活動の視点から

◇本人たちの想いである「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」の願を、各施策に反映させていくことが、何よりも大切です。この実現のためには、親の会としての全面的なバックアップ体制の構築が、是非とも欠かせません。また、本人に寄り添った指導的な役割を担う人材の確保が求められます。

◇今年夏には、九州ブロックとしての「本人大会」を、「長崎きずな」がその任務を担う必要があります。このためには、本人の意見を聴き、まとめる力を高めることも危急な課題となっています。

◇2013年に開催された「障害者施策に関する意見を聴く会」で要望していました「島原鉄道の運賃が割引が、距離に関係なく半額を」が認められ、2015年10月より運賃割引が始まりました。本人さんの声が形となった出来事です。

3. 育成会の活性化の視点から

◇新生された「全国手をつなぐ育成会連合会」が発足して約2年が経過しました。新組織には専任で事業執行を担う事務局員の配置がなく、其々の地域の育成会が兼務で事業が進められています。担当頂いているセンター事務育成会の皆さんに深く感謝。（県育成会に、任務を担う要請がありましたが応えることが出来ていません。）

◇全国レベルにける障害者制度の動きの把握や、「全国手をつなぐ育成会連合会」の更なる前進のためにも賛助会員の拡大が求められています。（会誌「手をつなぐ」の発行部数の増）会員の皆さん、“賛助会員への登録”にご協力下さい。

◇県育成会では、障害者団体の一員として、①活動の透明性を高めること ②ニュース性のある情報は早くお知らせすること ③各種セミナー等への参加については、「障がいの枠を超えて参加を」と願って、2015年4月より「ホームページ」を開設し運用を行ってきました。現時点でのホームページへのアクセス数は、月平均200件程度であり、情報提供ツールとしては、未完成です。会員の皆さんが広報マンとして、県民の皆さんに「拡散」して頂きたいをお願いをしておきます。有益な情報提供が出来ますよう、県育成会も力を注ぎます。

◇県育成会発行の機関紙「愛育ながさき」は、広報部の尽力を得て年4回の発行でき、会員の皆さん全員に活動情報を届ける体制に努めています。

4. 若い保護者の皆さんへ

◇2013年から始めました特別支援学校保護者の皆さんを対象に「あなたの立ち位置、見直してみませんか？」のタイトルで展開してきています。本ワークショップは、大変好評を得て「もう一度参加したい」「目からうろこ」など感想や励ましを頂きました。

◇2014年度利用したプログラムの見直しを図りながら、分教室を含め6校（計画中1校を含む）で講座を開催しています。特に、松浦市手をつなぐ育成会総会の折り、プログラムの紹介をしましたところ佐世保特別支援学校北松分教室でも是非開催して欲しいとの要望がなされ、実現しています。今後、特別支援学級で学ばれている保護者の方々への情報提供も行うことができないか、検討を加えて行きます。

5. 地域をつなぐ推進会議

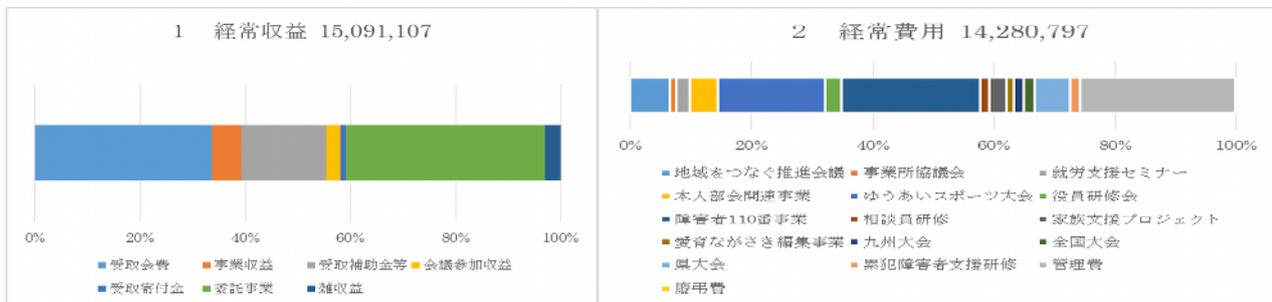
◇2013年より始めました「働きたい」を叶えるための講座は、商工会議所をはじめ、福祉関係者の皆さんが一堂に会して、障害者雇用を展開されている事業主さんの体験談や働く当事者の声を各地でお伝えしてきました。関係機関の皆さんに感謝。新年度からは「意思決定支援」について新講座を準備しています。ご期待下さい。

平成 27 年度 長崎県手をつなぐ育成会 決算(概要案)

単位：円

1 経常収益		2 経常費用（事業費ごとに計上）	
受取会費	5,087,000	地域をつなぐ推進会議	939,000
正会員会費	4,312,000	事業所協議会	131,732
賛助会員会費	775,000	就労支援セミナー	341,997
事業収益	845,258	本人部会関連事業	657,207
受取補助金等	2,431,943	ゆうあいスポーツ大会	2,509,275
運営費	951,000	役員研修会	389,823
役員研修費等	393,943	障害者 110 番事業	3,284,643
地域推進会議	687,000	相談員研修	211,215
共同募金	400,000	家族支援プロジェクト	398,372
会議参加収益	405,000	愛育ながさき編集事業	166,458
受取寄付金	150,480	九州大会	251,971
委託事業	5,722,976	全国大会	251,508
スポーツ大会	2,057,143	県大会※	840,179
障害者 110 番	3,141,260	累犯障害者支援研修（TS）	233,627
本人部会関連	524,573	管理費	3,657,978
雑収益	448,443	慶弔費	15,000
経常収益計	15,091,107	経常費用計	14,280,797

※県大会とあるは、28 年度九州大会長崎大会の経費



3 26 年度決算との比較

26 年度収入 16,733,263 に対して 収入割合は 90% （県大会抜きの場合 97%）
 26 年度支出 15,839,177 に対して 支出割合は 90% （県大会抜きの場合 97%）

全国大会神奈川大会の紹介

全国大会神奈川大会は、7月2日～3日（土曜日・日曜日）神奈川県民ホール・ワークピア横浜で「誕生した大切な命だから 一人ひとり充実した一生を！」をテーマに開催されます。各分科会は、下記のとおりです。「よろこびを力に・・・」題して元マラソン選手 有森裕子氏の記念講演も、参加者の楽しみの一つです。長崎からは30名が参加する予定です。後日、参加者の声をお届けします。

- 第 1 分科会：『大切な命を授かって生まれる』 ～家族支援と本人支援のバランスを考える～
- 第 2 分科会：『インクルーシブな社会で育つ』 ～権利条約から読みとく教育・社会参加～
- 第 3 分科会：『自分らしさを発揮して生きる』 ～可能性を引き出す支援の実践～
- 第 4 分科会：『成人後の人生を自立的に暮らす』 ～制度を利用する際の意思決定支援のあり方～
- 本人分科会：A コース《ぶっちゃけトーク》 B コース《はたらくトーク》
- C コース《生き方トーク》 D コース《手作りワークショップ》

「地域をつなぐ推進会議」3年間の成果について

1 はじめに

平成 25 年度から 3 年間、県下 13 か所を回り、自立支援協議会、障害者相談員、民生員児童委員、商工会議所・商工会・一般企業関係者 さらには一般市民の参加を得て、障害者雇用主の講演、働く障害者の発表、地域づくりの提言を行ってききましたので、成果と残された課題についてまとめを行なっています。

2 3年間の成果

- (1) 県下各地を回り、参加された方々に、障害者の雇用は、決してできないことではなく、障害に対する理解、障害者への対応のノウハウなどを共有することにより、きっかけがあればできるという理解が広まった。
- (2) 一般就労している、又は施設等で働く障害者本人の体験発表と仕事や日常生活等に関する質疑応答で、障害者が普通に、又は努力して働いている、生活していることを知っていただき、障害者とその能力に応じて、周りの理解を得て、十分働けることについて理解していただいた。
- (3) 行政・自立支援協議会等においても、障害者就労支援についての必要性は分かっていたが、地域としてのネットワークづくりの知識が少なかったため、なかなか就労支援へ結びつかなかったが、今回の会議に学校の先生、民生委員児童委員、障害者相談員、施設等の関係者が参加することにより、地域ネットワークづくりの端緒を見いだせた。

3 残された課題

- (1) 参加者について、育成会や障がい者関連の施設・相談員等が多く、企業主の参加が少なかったため、直接的な就労へは結びつかなかった。
- (2) 障害者を雇用した企業主にしても、自ら進んで雇用するケースは少なく、何らかのきっかけがあったことであり、そのきっかけづくりが必要である。そのためにも、障害者を知ってもらうことの努力がまだ不十分であり、身近に感じてもらう努力がさらに重要である。
- (3) 障害者の就労のためには、地域で支援するということが、理解できたと思うが、実際の行動として、軸となる自立支援協議会、特に就労支援部会の活動について、まだまだ不十分な地域が多いのでその活性化が望まれる。

4 まとめ

育成会の地域福祉における新たな役割を確認し、地域の在宅知的障害者の社会参加及び就労支援など福祉の増進をいかに進めるかについて 協議し、地域における知的障害者の自立した生活のための地域ネットワークづくりを目的として実施したが、講師の熱心な講演、本人の率直な発言、参加者の真摯な態度により、いくつかの課題を残しつつ、趣旨について県下各地で共有されたものと思料する。

平成 27 年度で「働きたい、働き続けたい」を目的とした、地域に密着した連携関係づくりは、一応区切りとなるが、毎年開催している「働きたいを支えるために」をテーマにした「障害者を戦力にしませんか」を合言葉に今後もあらゆる機会を通して、行政、事業者呼びかけて続けていきます。

本人発表の様子（一部）



平成 25 年度 大村市



平成 26 年度 松浦市



平成 27 年度 諫早市

第1回「みんなで知る見るプログラム」研修会開催

平成28年4月9日(土)、10日(日)の一泊二日にわたって、長崎県育成会主催「みんなで知る見るプログラム」研修会が諫早青少年自然の家で開催され、諫早市、佐世保市、西海市、島原市、長崎市育成会の本人部会とふれあいネットワークぴあの代表30名、支援者21名が参加しました。このプログラムは全国手をつなぐ育成会連合会(当時全日本手をつなぐ育成会)が、本人が「自分の障害を知り、可能性や夢を見つける」ことを目的に3年前に作成したものです。

今回の研修会は今年8月に長崎市で開催される九州大会の本人向け分科会のひとつに「みんなで知る見るプログラム」のワークショップが予定されているため、県内の本人たちにこのワークを知ってもらうことと、本人部会の運営がスムーズにいくよう、各本人部会の親睦を深めることを目的に開催されました。

9日の昼食後、いよいよ研修会がスタートしました。

甲田会長の挨拶の後、県の本人部会「長崎きずな」の会長吉田光一さん(島原市育成会)が「2日間楽しく研修して、みんなで長崎大会を成功させましょう。」と挨拶されました。2日間で7つのワークショップ(参加型の研修)が実施され、長崎市育成会の本人ファシリテーター(ワークショップの進行者)がそれぞれのワークを担当し、全体進行を行いました。まず、『みんなと知り合いになろう』というワークで、お互いを紹介し合う他己紹介を全員行い、緊張していた表情が笑顔になっていきました。次の『〇Xクイズ』では出される問題に〇やXのカードを揚げ、理由を尋ねられるとそれぞれにしっかりと自分の意見を発表されました。「知的障害は治らない」という問題に最初は戸惑い「考えたことない。」「こんな問題に答えるなんて…。」「分からない。」と言いながら、『さいころトーク』での障害についてのテーマ、最後のワークの『障害ってどんな感じ?』というワークまで、みなさん自分なりの障害のイメージを一生懸命考えてくださいました。「辛い、苦しいままだから、色で言うと黒。」という方、「今は仲間ができて楽しい。」「自信がついた。」「自分らしく暮らしてる。」という理由で、明るい色や花の絵などを示し、今の自分を肯定的に受け入れた前向きな意見も多く聞かれました。退所式でのみんなの感想では、「いろんな人と交流して楽しかった」「いろんな違う意見が聞けてよかった」「自分のほんとうの気持ちが言えた」「友だちがたくさんできた」など、とても楽しまれた様子が伝わってきました。「みんなと離れるのが寂しい」と言う方もおられ、直接甲田会長に「2回目をお願いします」と訴える方までいらっしゃいました。8月の九州大会での本人部会第5分科会で、この「知る見るプログラム」のワークが体験できます。ぜひみなさんご参加ください。



甲田会長挨拶



楽しかったと、1番人気の「さいころトーク」

な違う意見が聞けてよかった」「自分のほんとうの気持ちが言えた」「友だちがたくさんできた」など、とても楽しまれた様子が伝わってきました。「みんなと離れるのが寂しい」と言う方もおられ、直接甲田会長に「2回目をお願いします」と訴える方までいらっしゃいました。8月の九州大会での本人部会第5分科会で、この「知る見るプログラム」のワークが体験できます。ぜひみなさんご参加ください。

本人部会サポーター マネージャー

吉井裕子(長崎市育成会)

☆ 知る見るプログラムに参加した支援者から感想をいただきました

諫早青少年自然の家にて行われました「知る見るプログラム研修会」に参加しました。今回の参加者で普段の生活から自分のことを表現する、考えるといった事が苦手な方がいた為、支援者として不安が大きくありました。しかしその不安は研修会が始まるとすぐに払拭される結果となり「驚き」に変わりました。相手に自分のことを伝えたい・相手のことを知りたいという気持ちが行動に表れていたからです。様々な工夫あるワークを通して普段とは違う一面を見ることが出来、またとても充実した研修会に私自身参加できたことに感謝したいと思います。(佐世保市手をつなぐ育成会 のびのび 支援員 江口寿一)



第56回九州地区手をつなぐ育成会長崎県大会の開催に向けて

長崎県の皆さんの参加をお待ちしています！

8月に予定されている九州大会も残すところあと4か月となりました。開催要項も各育成会に配布されましたので、大体の概略はご理解いただけたかと思いますが、今回の広報誌では、分科会の情報を少しお知らせします。第1分科会は障害者基本法等に謳われている「意思決定支援」について。第2分科会では、おなじみの権利擁護がテーマですが、障害のある方がその人らしく認められて生きていける共生社会について考えを深めます。第3分科会は事業所での本人を中心においた支援のあり方を探ります。今回の分科会は、発表者を少なくし助言者をおかず全国育成会連合会より素晴らしいコーディネーターの皆さんをお願いし、より充実した分科会となるように考えています。また、第4分科会では本人と親さんがともに参加する分科会で、「働く」について本人さんの話を聞きたいと思います。第5分科会の「知る見るプログラム」は、本人のための課題をワークショップ形式で進める内容で、発案者の吉川かおり教授にコーディネーターをつとめていただくことになり、充実した本人分科会となるようです。最後に第6分科会は長崎ならではの観光コースを4コース用意しています。本人さんのための有意義な時間となるようにスタッフ一同準備に頑張っています。九州大会長崎県大会へ一人でも多くの会員の皆さまのご参加を、よろしくお願い申し上げます。

【分科会の内容】

第1分科会(ブリックホール2F 大ホール) 「自分で決める」「自分で選ぶ」を支える 意思決定支援 ① 支援者の意思決定支援を考える ② 家族(親)による意思決定支援を考える	(コーディネーター) 田中正博氏 全国手をつなぐ育成会統括 (発表者) ・花田敏秀氏 福岡市育成会ひまわり園施設長 ・久森栄氏 北九州市育成会副会長
第2分科会(ブリックホール3F 国際会議場) 権利擁護について考える ① 差別のない共生社会づくり ② 成年後見制度を利用して	(コーディネーター) 又村あおい氏 全国手をつなぐ育成会政策委員 (発表者) ・山下うらら氏 熊本八代育成会とら太の会みのり施設長 ・松下清高氏 大分県育成会 副理事長
第3分科会(ブリックホール3F 会議室) 魅力ある事業所づくり ① 本人が自立をめざす魅力ある事業所運営 ② 地域づくりの成果について(地域交流)	(コーディネーター) 田中寛氏 沖縄県育成会理事長(全国事業所協議会会長) (発表者) ・十島真理氏 鹿児島育成会吾子の里きずな学園施設長 ・中島哲司氏 佐賀県育成会ふれあい作業所所長
第4分科会(ハートセンター 2F 研修室) 「はたらき続けるために」	(コーディネーター) 堀 浩一郎氏 福岡市育成会ひまわり園施設長 (発表者) 他10名の本人の皆さん
第5分科会(ハートセンター 3F 体育室) 「知る見るプログラム」(本人ワークショップ)	(コーディネーター) 吉川かおり氏 明星大学人文学部福祉実践科教授 (参加者)各地の本人さん
第6分科会 各観光コース(さるく「平和コース」「世界遺産コース」、軍艦島クルーズ、ペンギン水族館)	

平成27年度 賛助会員 (3月7日以降 敬称略)

本年度も長崎県手をつなぐ育成会へのご支援に対し、心より感謝申し上げます。

氏名	所属	施設長名	所属	施設長名
麻生 隆	明けの星寮	永代 秀二郎	あゆみ園	財部 久仁信
近藤 智昭	きぼうの里	福田 剛武	レジデンス大村	
野本 三雄	就労支援施設データワーク	永石 浩一郎	NPO法人インフィニティ	門畑 和也
	さをり工房ながさき	上野 左千子		平野 嗣雄
	カレッジながさき	長谷川 美栄		

「熊本地震」義援金のお願い

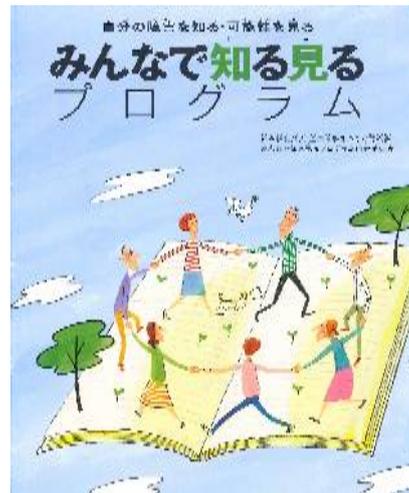
熊本地区の皆さんは、さる4月14日以来16日未明の本震の後も、千回を超える余震に苦しんでおられます。被災地で孤立しがちな“障がいのある人とその家族”を直接支えるために「災害支援義援金」を募っています。多くの皆さまに、義援金のご協力をお願い申し上げます。(下記口座に直接送金下さい。併せて、県育成会にも一報をお願いします)

送金口座 【銀行名】滋賀銀行県庁支店 【口座番号】普通 516706
 【口座名義】全国手をつなぐ育成会連合会 災害支援義援金

《 長崎県育成会定期総会のお知らせ 》

多くの方にお越しいただきますようお願いしております(事務局)

日時 平成28年6月18日(土曜日)
 会場 長崎原爆資料館ホール
 受付 12:30～
 次第 13:10～13:40 式典
 13:50～14:20 議事
 14:20～14:40 報告事項(九州大会など)
 14:50～15:50 『みんなで知る見るプログラムとは』紹介
 15:50～16:00 副会長あいさつ・閉会



※ 今年から、定期総会に障害者本人に関する情報提供(参加・発表等)を設けました。

知的障害児者・自閉症児者のための 生活サポート総合補償制度

(年間掛金) Aプラン: 17,000円、Bプラン: 23,000円

入院給付金 個人賠償責任保険金 葬祭費用保険金
 死亡・後遺障害・入院・通院・手術の各保険金

2016年4月より 新プラン誕生!!

新プラン(Bプラン)の主な特長は
 ★入院給付金 2日目から補償
 ★個人賠償 最高3億円まで補償
 ★ケガの入院を日額5,000円、通院を3,000円補償

既往症、てんかん発作など知的障害児者・自閉症児者の方が抱える様々なリスクを補償するために開発された制度です。

パンフレットのご用命は下記事務局または担当代理店へお問い合わせください。



(事務局) ながさき知的障害児者生活サポート協会
 TEL: 095-893-5503 FAX: 095-814-1778

(担当代理店) ジェイアイシー九州
 TEL: 092-791-7561 FAX: 092-791-7562



◆創立 50 周年記念誌を紐解いてみますと「県育成会役員研修会」の始まりは、昭和 50 年代が起点とのこと。その当時は、各地の育成会に出向き「地域育成会が果たす課題」を中心に研修が行われた痕跡をみるすることができます。◆県下の育成会役員の皆さんが一堂に会する研修会スタイルは、平成の時代に入ってからです。行政説明、直面している課題について、夜遅くまで意見交換がなされています。そこには、措置制度から契約制度への大きな転換点など、障害者を取り巻く環境が大きな変化が伴ったことが背景にあったと振り返ることができます。◆社会の変化を機敏に捉えていくためには、背中を押して頂ける、あるいは事業所で「活用してみたい」等感じて頂ける組織を越えた講師の方を招きし、新しい空気を感じて欲しいとの願いを込めて、この数年間「役員研修会」を行ってきました。午前の部では一般の会員の皆さんにも参加して頂けるテーマを選択し「くららベーカリー 石倉泰三さん」などがその事例に挙げられます。◆これからも、アンテナを高くして「地道に活躍され、地域で貢献されている方」を講師として呼び出せるよう心掛けたいと願っていますが、一日に二つの課題の研修は、よくばり過ぎというご意見もあり、見直しの時期かとも捉えています。皆さんのご意見を寄せて下さい。◆全国手をつなぐ育成会連合会の権利擁護センターでは「知ってほしい・知っておきたい—知的障害と「警察」—」に続く第 2 段として『できていますか？子どもに託す準備 「生計」と「生活」』（仮称）の発行に向けて起稿が行われています。高齢になった（なりつつある）親向けに、将来の準備をする。“言葉ではなく、実行しましょう”と呼びかける内容になる見込みです。研修教材でもあり、行動を促すための「チェック」機能も備えたものとして活用できるのではと期待しているところです。（発行は夏？）◆3月初め、品川駅に近い会場で、行政説明&育成会フォーラムが開かれました。フォーラムには、又村あおい氏（手をつなぐ編集委員）野澤和弘氏（毎日新聞論説委員）大塚晃氏（上智大学教授）久保厚子氏（全国手をつなぐ育成会連合会会長）が登壇し、意思決定支援・障害者基礎年金・これからの育成会活動等について意見が交わされました。会員の皆さんにも、この様子を知って欲しいと録画がなされています。近日、DVD の形で県育成会に届きます。研修教材としての利用方法を、検討中です。（甲田 記）



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者（本人・家族）に関する教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全日本手をつなぐ育成会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。年間 3,800 円 B5 版 48 ページ
 長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。
 申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

特別支援教育を必要とされている方のために生まれました。 広告

ぜんちの 個人賠償 弁護士費用 ケガ入院・通院
こども傷害保険

- ◎ 個人賠償責任補償
- ◎ 権利擁護費用補償 (弁護士費用)
- ◎ ケガでの入通院保障



特別支援学級に通う児童・生徒のために開発された、障がい児のための専用保険です。知的障がいや発達障がいのある子どもたちを、事故や虐待被害などからお守りし、安心した学校生活を送っていただけます。

詳しい資料のご用命は、下記代理店にお願いいたします。

○取扱代理店

有限会社 トータルサービス(担当:向井)
 TEL 095-832-2430 FAX 095-832-2580
 〒850-0033 長崎市万才町 6-35 三井生命長崎ビル5階

○引受保険会社

ぜんち共済株式会社
関東財務局長(少額短期保険)第14号
 〒101-0032
 東京都千代田区岩本町 3丁目 5番 8号
 岩本町シティプラザビル 5階
<http://www.z-kyosai.com/>

* この広告は商品の概要を説明しております。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。